



# PISA

IN FOCUS

25

education policy education policy education policy education policy education policy education policy education policy

## 各国はより公平な教育システムに近づいているのだろうか？

- PISA調査の結果は、完全に公平な教育システムを創り上げる目標を達成した国・地域はないものの、その目標にかなり近づいている国もあることを示している。
- 一部の国・地域では、公平さの向上が全体的な成績の改善と同時に、しかも比較的短期間に達成できることが示された。

PISA調査は、不利な条件と学校での成績不振とつながりがあることを一貫して示してきた…

生徒の背景と関係なく、質の高い教育機会をあらゆる生徒に提供するのが理想的な学校システムである。社会経済的に恵まれた家庭の生徒も恵まれない家庭の生徒も、学校で優

秀な成績を収める可能性は平等であるべきである。いずれにしても、それが理想である。だが多くの国々で、現実は大いに違って見える。PISA調査の結果は、社会経済的に不利な条件が学校での成績不振と関連することを一貫して示してきた。実際にOECD加盟国の平均では、読解力得点が最も低い層に入る可能性は、恵まれない生徒の方が恵まれた生徒に比べて2倍高い。PISA調査の読解力得点において、社会経済的に恵まれた生徒は恵まれない生徒よりも平均して88点高く、この違いは学校教育の2年分以上に相当する。

しかし、国・地域によって学習の成果が社会経済的背景と関連する程度が異なるという事実は、社会的背景が運命ではないこと、そして政策と実践が状況を改善できることを証明している。さらに、各国は公平な学習の成果を追求しつつ、生徒の優秀な成績に向けて進むこともできる。PISA2009年調査では、生徒の成果が最も公平な国・地域の多くが、成績も優秀である。カナダ、エストニア、フィンランド、香港、アイスランド、韓国、リヒテンシュタイン及びノルウェーの生徒は読解力得点においてOECD平均を上回り、恵まれた生徒と恵まれない生徒の成績における違いは70点以下である。公平な学習の成果を達成している国・地域もあるが、生徒の成績はそれほど良い訳ではない。



# PISA

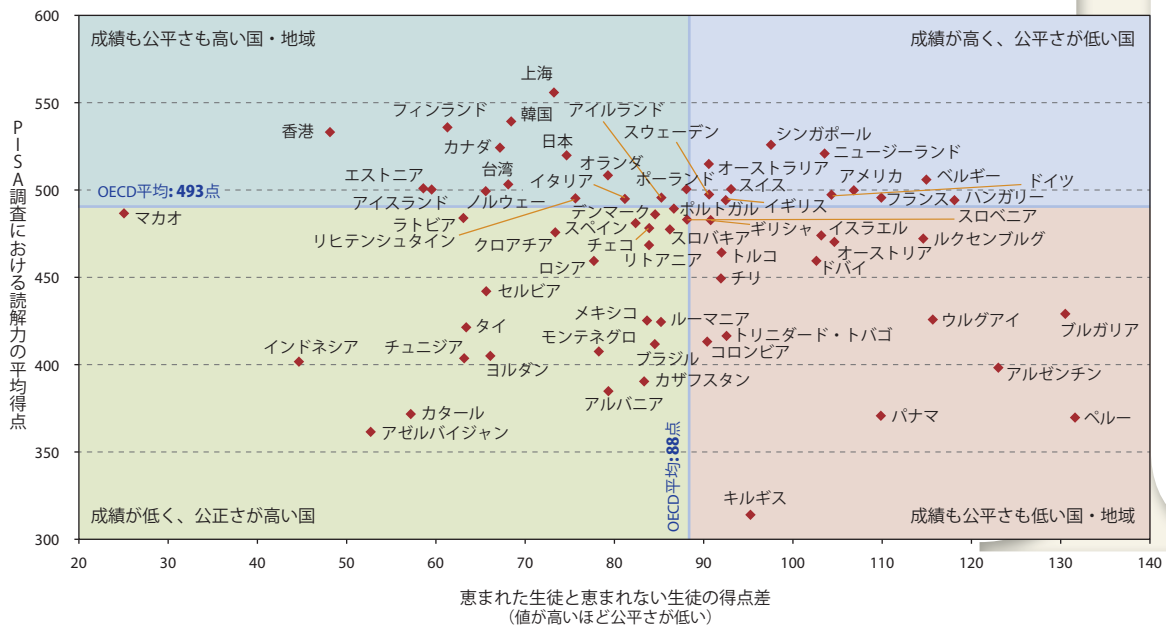
IN FOCUS

アゼルバイジャン、インドネシア、ヨルダン、マカオ、カタール、セルビア、タイ及びチュニジアも上述の国々と同じぐらい公平であるが、生徒の読解力得点はOECD平均を下回っている。恵まれた生徒と恵まれない生徒の読解力の成績における違いが100点以上と非常に大きいのは、アルゼンチン、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、ドバイ、フランス、ドイツ、ハンガリー、イスラエル、ルクセンブルク、ニュージーランド、パナマ、ペルー、アメリカ及びウルグアイである。

…しかし、それはつながりを断ち切れないということではない。

社会経済的な違いが成績における違いをどの程度もたらしているかは、学校システムによって異なる。この事実は、不利な社会的背景によってもたらされるいかなる障害も克服できることを意味する。社会経済的な違いと成績における違いの一部は文化に起因する場合もあるが、その関係が著しく変化してきている国もあるという事実は、政策と実践で状況が改善できることを示唆している。

PISA2009年調査における国・地域の公平さと成績



出典: OECD (2010), *PISA 2009 Results: What Students Know and Can Do*, Volume I, OECD Publishing, Table I.2.3; and OECD (2010), *PISA 2009 Results: Overcoming Social Background*, Volume II, OECD Publishing, Table II.3.1.

多くの国・地域が、恵まれた生徒と恵まれない生徒との間の成績の格差を縮めつつ、同時に全体的な成績を向上させることにおいて、著しい進歩を遂げてきた。これは、教育システムにより、社会経済的背景における違いが生徒の成績に影響する範囲を狭める一方で、すべての生徒に学習を促すことが可能であると示している。PISA2000年調査とPISA2009年調査の結果を比較すると、アルバニア、チリ、ドイツ及びラトビアでは、生徒の社会経済的地位と読解力得点との関係

が弱まり、生徒全体の読解力平均得点が改善した。このうちドイツでは、恵まれた生徒と恵まれない生徒との間の得点差が25点以上縮まり、全体の読解力平均得点が13点上昇した。チリでは全体の読解力平均得点が40点上昇し、恵まれた生徒と恵まれない生徒との間の得点差が15点以上縮まった。



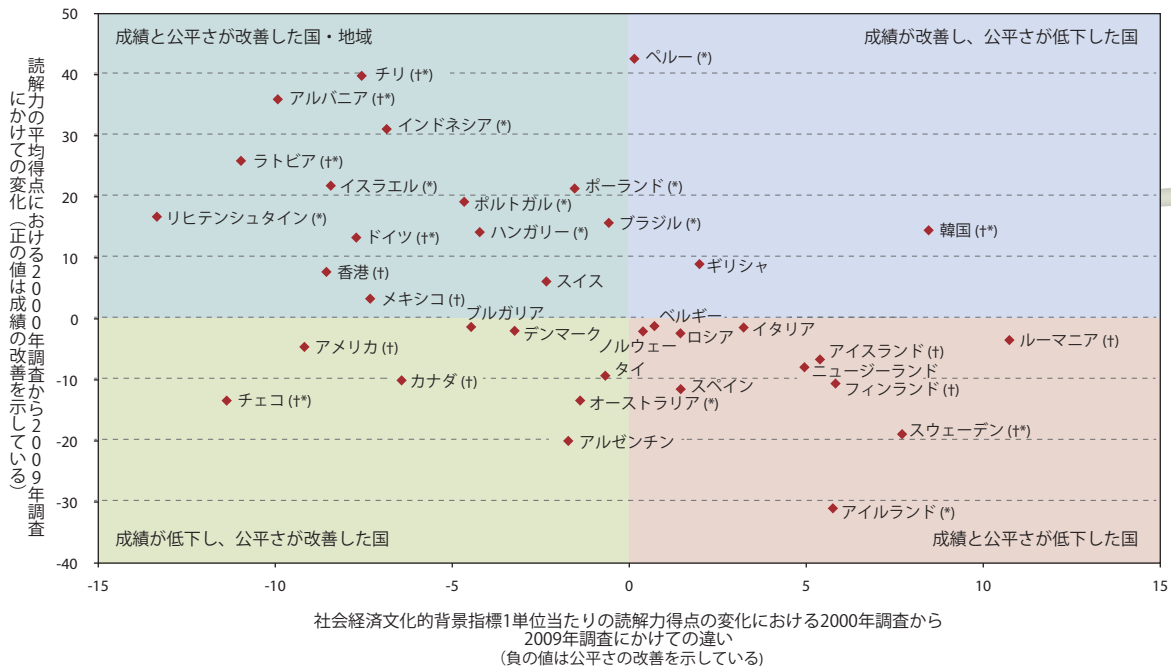
その他の国・地域、具体的にはカナダ、チェコ、香港、メキシコ及びアメリカも公平さの水準が改善されたものの、国の全体的な成績の改善はみられなかった。

### 適切な政策がつながりを弱める一助となる。

アルバニア、チリ、ドイツ及びラトビアでは、PISA2000年調査からPISA2009年調査の間に社会経済的地位と読解力得点との関係が弱くなり、国全体の平均得点が改善した。こうした国々で公平さと成績が同時に改善されたのは、あらゆる背景の生徒の得点が上昇し、特に恵まれない生徒に大きな改善が見られた（アルバニア及びチリの場合）ためか、あるいは、恵まれた生徒の得点に大きな変化はなかったが、恵まれない生徒の得点が大きく変わった（ドイツ及びラトビアの場合）ためである。

公平さと成績における改善を促すことができる教育政策には、恵まれない生徒、すなわち教育において不利な条件を抱えて学校に通い始める生徒に対する支援を、質・量共に充実させること、すべての学校が質の高い教育を提供できるようにすること、恵まれない生徒に、親では与えられない教育機会を別途提供することなどが含まれる。恵まれない生徒が多い学校、または学校内の恵まれない生徒に対する支援を拡大することも考えられる。学校教育を開始する前に極めて重要な家庭でも、学校でも、恵まれた生徒と恵まれない生徒の人生経験がそれほど違わないよう支援する、より幅広い社会政策が考えられるが、これなども公平さと成績の両方を向上させることができる。

公平さと成績のPISA2000年調査からPISA2009年調査にかけての変化



注: PISA調査における生徒の社会経済文化的背景指標1単位当たりの読解力得点の変化は、通常、社会経済的背景の影響を表しており、生徒の読解力得点に対する社会経済的背景の回帰係数である。PISA2000年調査からPISA2009年調査にかけてのこの変化の違いは、横軸に示されている。+ は公平さの変化が統計的に有意であること、\*は成績の変化が統計的に有意であることを示している。

出典: OECD (2010), PISA 2009 Results: Learning Trends, Volume V, OECD Publishing, Tables V.2.1 and V.4.3.



# PISA

IN FOCUS

学校システムにおいて公平さと全体的な成績を向上させるこうした政策はすべて、生徒は公平な条件で競争すべきであり、社会経済的に不利な条件により、生徒が他の生徒が享受する機会と同じ機会を得られない場合は、こうした機会を学校システムが提供する必要があるという前提に基づいている。

PISA調査における**社会経済的地位**は、社会・経済・文化的地位 (ESCS) に関するPISA指標によって測定される。この指標は、親の職業及び学歴に関する生徒の回答と、家庭にある文化的所有物及び教育リソースに関する生徒の回答を組み合わせたものである。**恵まれた生徒**とは、その国のESCS指標の分布の上位4分の1に位置し、**恵まれない生徒**とは下位4分の1に位置する者である。**成績不振の生徒**とは、その国の得点分布の下位4分の1に位置する者である。

**結論:完全に公平な教育システムを創り出すという目標を実現した国・地域はないものの、適切な政策によって、社会経済的背景と成績とのつながりを弱めることができた国がある。これは、恵まれない背景の生徒が学校で成績が振るわないのは仕方がないとみなすべきではないことを示している。背景に関係なく、すべての生徒に学校で良い成績を上げる機会が同じ様に与えられるべきである。**

本稿に関するお問い合わせ先

担当: Guillermo Montt ([Guillermo.MONTT@oecd.org](mailto:Guillermo.MONTT@oecd.org))

出典: OECD (2010), *PISA 2009 Results: Overcoming Social Background: Equity in Learning Opportunities and Outcomes*, Volume II, PISA, OECD Publishing,

OECD (2010), *PISA 2009 Results: Learning Trends: Changes in Student Performance Since 2000*, Volume V, PISA, OECD Publishing, Supporting data.

参考サイト:

[www.pisa.oecd.org](http://www.pisa.oecd.org)

[www.oecd.org/pisa/infocus](http://www.oecd.org/pisa/infocus)

次回テーマ:

「成績評価について」

本稿の翻訳は、日本のPISAナショナルセンターが担当しました。